



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

---

CITATION:

質疑應答. 地球 1930, 13(6): 471-472

ISSUE DATE:

1930-06-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183762>

RIGHT:

## 質疑應答

(問) アルゼンチンの小麦と肉に就て (大阪下生)

(答) 大戦以來亞國外國貿易は長足の進歩をなし、一九一三年に輸出五億二千萬弗、輸入約五億萬弗であつたものが、一九二八年には輸出十億弗を超え輸入も亦九億に達した。これは主として世界の食料品界に寄與する所のものであつて、輸入食料品の大消費國たる英國はその總輸出額の二五%以上を購ひ従つて英國の資本の流入も大きい。しかし英國の對亞貿易は輸入總額の二割を供給するに止まつてゐて、米國に劣つてゐる。米國は總輸入の二六%五に達するにも不拘英國は一九%九である。

アルゼンチンの穀類の宗をなすものは小麦である、穀産國としての世界市場に對するアルゼンチンの強味はその收穫期が北半球と相反する點であつて、北半球の收穫物が市場に出きつた頃に其穀物が成熟する、やがて同國の穀類の供給は、世界の一箇年を通じての穀類價格を安定さすといふ事になるのである、従つてアルゼンチンの勢力は今日ではカナダの小麦輸出の上に大影響を與へた、一八八二年には英國市場へ初めて小麦三二、〇〇〇萬を輸出したけれども手入がわるかつたために賣れなかつた。其後設備を改善し一八八三年には百萬俵に達した。それが一九二九年には小麦及小麦粉略一億 CWTs の多きに達するやうになつた。今最近の發展を表示

すれば、

○世界小麦輸出額の比率

アルゼンチン	カナダ	米國	澳洲	印度
一九〇一—一九一三	六、七	三、九	九、八	八、〇
一九二五	五、五	三、九	一七、五	三、六
一九二六	三、六	四、〇	三〇、九	〇、九
一九二七	三、八	三、七	三、九	二、四
一九二八	六、五	四、七	一〇、五	七、九

年々天候の狀態又は國によつて異なるも、大戦後輸入國は、以前ロシア及印度に向けて居た小麦の買付をアルゼンチンに向けるやうになつたことは確實であつて、これは經濟地理上最近の一大變化である。

亞國の小麦作付面積は年々平均二千萬エーカーであるが、玉蜀黍や紫苜蓿の作付地は、小麦の値段が騰貴すれば、すべて小麦畑にかはる。小麦の平均收穫高は一エーカーにつき約七五〇封度であり、新開地は一、三〇〇封度乃至一、七〇〇封度である、これは粗放農であることを語る。英國での優秀な小作人は一エーカー一噸即ち二、二四〇封度をとるからである。小麦の外に玉蜀黍や燕麥の少からぬ額も輸出される。つぎにアルゼンチンの製肉業を見るに、これ又大戦以後大に發達し、一九一四年に牛の數二千六百萬頭であつたものが、一九二二年に三千七百萬頭に増加した、従つて今日肉類供給に於て、アルゼンチン程重要な地位にある國は他にない、その進歩左の如し。

	冷凍肉	冷蔵肉	冷凍羊肉	罐詰肉
一九二〇—一九二一	二六〇、四三噸	一六、八三	六、七三	一三、八三
一九二二	二六八、七三	二五、三〇	八、六〇	八、四六
一九二五	二六六、六五	二五、四三	九、八八	七、三六
一九二六	二六六、七五	二五、七六	九、二二	六、一〇
一九二七	二六六、四三	二六、六九	八、二六	六、四四
一九二八	二六六、六五	二六、〇七	七、六四	六、八六

十九世紀の後半英國が海外から肉類を大々的に輸入し始めた際最初は米國から生た家畜を輸入し港に於て屠殺してゐた、後にその補充として濠洲から冷凍羊肉が輸入され、やがて前者は全く跡をたち、其代り主としてアルゼンチンから冷凍牛肉及冷蔵牛肉が輸入されるやうになり、冷凍羊肉の方もアルゼンチンは濠洲やニュージールランドの強敵となるやうになつた。

英國は歐洲大陸よりの生肉輸入禁止を政府が決定せると同様に南米肉に對しても禁止せんとする傾向があつたけれども内國産は國內需要の半を充たすに足らぬから、南米肉は禁止することが出来ない。米國は肉の多い國であるがしかし今二三年もたてば南米から肉を輸入せねばならぬ程に需要が増加しつつある。

かやうにして亞國の肉は、引手数多であるにも不拘、牛の頭数は俄に増加しない。従つてもし米國へ肉が入るやうになつたら、アルゼンチンの肉の市價は更らに騰貴するであらう。

アルゼンチンの牛が減少した理由は、激烈な競争をやつたこと、玉蜀黍を栽培する方が有利であること、羊を飼う方が有利であることなどの結果である、一方アルゼンチン國內消費も段々増加するから莫大な現在の牛肉供給は永續しがたいと見る人がある。

牛よりも羊がよいといふのはこの國の羊はニュージールランド産やカナダ産の小羊よりも味は悪いけれども、大さの統一した多數を産するから商人に徳川な羊肉である。故に近頃牛よりも羊が増加したのである。さて今日ではアルゼンチンの二十個所の冷凍所に於ける日々の屠殺能力は牛二五、〇〇〇羊五九、五〇〇、及豚六、六〇〇に達する。これはニュージールランドの四十箇の冷凍工場能力より遙に優秀であつて、ニュージールランドは工場は多いけれども、其能力は亞國の五分一乃至五分三に達するに過ぎないのである。